

昭和廿大短大 ○森 ます美 天野寛子  
 郡立立川短大 大竹美登利 伊藤セツ

目的・方法 第1報で述べたとおりである。

表 平日・休日別における専業主婦及び専無職の夫の生活時間

結果 ①都市勤労者夫妻の平日・休日の生活時間調査の結果を、I専業主婦の夫・妻、II専無職の夫・妻別にみると右表のようである。②次にIとIIの生活時間を比較してみると、平日では④Iの妻の睡眠時間が最も短く7.14、IIでは夫妻とも等しく7.32である。⑤勤務時間は、IIの

生活時間分類	平日		休日					
	専業主婦	専無職	専業主婦	専無職				
	夫	妻	夫	妻				
生理的生活時間	9.52	9.38	10.04	10.07	11.45	11.45	12.33	11.31
収入生活時間	10.33	8.33	10.46	0	33	12	44	0
家事的生活時間	4.0	3.37	12	9.05	2.53	6.38	2.00	7.08
社会的文化的生活時間	2.55	2.12	2.58	4.48	8.44	5.25	8.43	5.21
合計	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00

夫、Iの夫、Iの妻の順に長く、Iの妻は勤務時間(7.14)、通勤時間(1.14)共に最も短い。①社会的文化的生活時間は、Iの妻の2.12に対し、IIの妻は4.48で約2倍である。休日では④睡眠時間は、IIの妻の8.38を除いていずれも9.00をこえている。⑤I・IIの夫及び妻の社会的文化的生活時間のすじり方はそれぞれ類似している。③家事的生活時間をみると、④平日、IIの妻はIの妻の2.5倍にあたる9.05の家事を行っている。休日には平日に比べ、Iの妻は増加し、IIの妻は減少してそれぞれ6.38、7.08である。⑥夫と妻の家事労働の分担率をみると、平日Iでは、夫15.6%：妻84.4%、IIでは2.2%：97.8%となり、休日はIの30.3%：69.7%に対しIIは21.9%：78.1%となる。④社会的文化的生活時間は、I・IIの夫妻共に、平日は、絶対的な時間の短かさが、時間が延長する休日についてはその内容的乏しさが指摘できる。I・IIと同時に調査したIII専無職の夫の生活時間及び主要行動と平行して行われた二次的・三次的行動についての時間的分析もあわせて報告する。